

DRUG

INFORMATION



2012 No. 15

平成24年6月11日発行

1. 医薬品の採用・中止・変更について..... 1

(平成24年6月7日 薬事委員会結果報告)

- ①新規試用医薬品
- ②採用中止医薬品
- ③製剤変更医薬品
- ④包装変更医薬品
- ⑤販売中止医薬品

2. 新規登録医薬品等情報 3

岐阜大学医学部附属病院・薬剤部
医薬品情報管理室
(内線7083)

※ Drug Information は医学部・附属病院 HP の下記アドレスにて提供しています。
<http://www1.med.gifu-u.ac.jp/drug-info/>

電子メールによる連絡を希望される方は下記までご連絡下さい。
di8931@gifu-u.ac.jp (担当：安田)

①新規試用医薬品

医薬品名(成分名)	薬品分類
サムチレール内用懸濁液 15% 5mL(アトバコン)	ニューモシスチス肺炎治療薬
ビオスリー配合散(ラクトミン、酪酸菌、糖化菌)	活性生菌製剤
フラジール内服錠 250mg(メロニダゾール)	抗寄生虫剤
メイアクト MS 小児用細粒 10%(セフジトレニピボキシル)	セフェム系抗生物質製剤
エムラクリーム 5g(リドカイン、プロピトカイン)	外用局所麻酔剤
ネバナック懸濁性点眼液 0.1% 5mL(ネバフェナク)	非ステロイド性抗炎症点眼剤
アリクストラ皮下注 7.5mg(フォンダパリヌクスナトリウム)	合成 Xa 阻害剤
カンサイダス点滴静注用 50mg(カスポファンギン酢酸塩)	キャンディン系抗真菌剤
カンサイダス点滴静注用 70mg(カスポファンギン酢酸塩)	キャンディン系抗真菌剤
テリボン皮下注用 56.5μg(テリパラチド酢酸塩)	骨粗鬆症治療剤
ランマーク皮下注 120mg(デノスマブ)	ヒト型抗 RANKL モノクローナル抗体製剤

⇒ 平成 24 年 6 月 19 日より処方開始の予定です。

②採用中止医薬品

医薬品名(成分名)	薬品分類
アズロキサ顆粒 2.5%(エグアレンナトリウム水和物)	胃潰瘍治療剤
アーテン散 1%(トリヘキシフェニジル塩酸塩)	パーキンソン症候群治療剤
エースコール錠 4mg(テモカプリル塩酸塩)	胆汁・腎排泄型 ACE 阻害剤
セレネース錠 3mg(ハロペリドール)	抗精神病剤
ヘプセラ錠 10mg(アデホビルピボキシル)	抗ウイルス化学療法剤
メソトレキセート錠 2.5mg(メソトレキサート)	葉酸代謝拮抗剤
パンドルローション 0.1%(ヒドロコルチゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル)	外用副腎皮質ホルモン剤
治療用アレルゲンエキスパ下注「トリイ」	特異的減感作療法薬
ケタラール筋注用 500mg(ケタミン塩酸塩)	注射用全身麻酔剤

⇒ 院内の在庫がなくなり次第、処方中止とします。

③製剤変更医薬品

旧医薬品名 ⇒ 新医薬品名	薬品分類
タココンブ組織接着用シート 9.5×4.8cm ⇒ タコシール組織接着用シート 9.5×4.8cm	シート状生物学的組織接着・閉鎖剤
ネオビタカイン注 5mL ⇒ ネオビタカイン注シリンジ 5mL	疼痛治療剤(局所注射用)

⇒ 旧製剤の在庫がなくなり次第、変更とします。

④包装変更医薬品

医薬品名〈旧包装 ⇒ 新包装〉	薬品分類
イドメシンコーワクリーム 〈25g/本 ⇒ 35g/本〉	外皮用非ステロイド性抗炎症・鎮痛剤
イドメシンコーワゲル 〈25g/本 ⇒ 35g/本〉	外皮用非ステロイド性抗炎症・鎮痛剤

⇒ いずれも院外専用医薬品です。両剤とも平成 24 年 7 月 1 日付で変更します。

⑤販売中止医薬品

医薬品名(成分名)	薬品分類
アテネントール錠 12.5mg(アネトールトリチオン)	利胆剤・唾液分泌促進剤
ポンタールカプセル 125mg(メフェナム酸)	鎮痛・消炎・解熱剤

⇒ いずれも院外専用医薬品です。「アテネントール錠 12.5mg」は平成 24 年 4 月 20 日付で既に中止済です。
「ポンタールカプセル 125mg」は流通在庫がなくなるか、経過措置期間満了となる平成 25 年 3 月 31 日で処方中止とします。

(アトバコン)

▶サムチレール内用懸濁液15%

Samtarel 750mg/5mL/包

[グラクソ・スミスクライン]

[薬価]1,679.6 円/包

[貯法]禁凍結

【効】ニューモシスチス肺炎、ニューモシスチス肺炎の発症抑制

【用】(内) [治療] 1 回 750mg を 1 日 2 回 21 日間、食後に経口投与する。[発症抑制] 1 回 1,500mg を 1 日 1 回、食後に経口投与する。

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【重副】Stevens-Johnson 症候群、多形紅斑、重度の肝機能障害

▶バイオスリー配合散

Bio-Three (配合剤)

[東亜新薬]

[薬価]6.2 円/g

1g 中：

ラクトミン

10mg

酪酸菌

50mg

糖化菌

50mg

【効】腸内菌叢の異常による諸症状の改善

【用】(内) 1 日 1.5～3g を 3 回に分割投与する。

(メトロニダゾール)

▶フラジール内服錠 250mg

Flagyl 250mg/錠

[塩野義]

[薬価]35.8 円/錠

【効】①トリコモナス症(腔トリコモナスによる感染症) ②細菌性膣症 ③下記におけるヘリコバクター・ピロリ感染症：胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃 MALT リンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃

【用】(内) ①1 クールとして、1 回 250mg を 1 日 2 回、10 日間投与する。②1 回 250mg を 1 日 3 回又は 1 回 500mg を 1 日 2 回 7 日間投与する。③《アモキシシリン水和物、クラリスロマイシン及びプロトンポンプインヒビター併用によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功の場合》メトロニダゾール 1 回 250mg、アモキシシリン水和物 1 回 750mg 及びプロトンポンプインヒビ

ターの 3 剤を同時に 1 日 2 回、7 日間投与する。

【禁】既往に本剤の成分に対する過敏症を起こした患者、血液疾患のある患者(特発性血小板減少性紫斑病の患者を除く)、脳・脊髄に器質的疾患のある患者、妊娠 3 ヶ月以内の婦人(有益性が危険性を上回ると判断される疾患の場合は除く)

【重副】末梢神経障害、TEN、Stevens-Johnson 症候群、急性腭炎

(セフジトレンピボキシル)

▶メイアクト MS 小児用細粒 10%

Meiact MS 100mg/g

[Meiji Seika]

[薬価]223.1 円/g

[貯法]遮光

【効】小児：表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、顎炎、猩紅熱、百日咳

成人(嚥下困難等により錠剤の使用が困難な場合)：表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、眼瞼膿瘍、涙囊炎、麦粒腫、瞼板腺炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎

【用】(内) 小児に 1 回 3mg/kg を 1 日 3 回食後に投与する。成人には 1 回 100mg を 1 日 3 回食後に投与する。重症又は効果不十分と思われる場合は、1 回 200mg を 1 日 3 回食後に投与する。

【禁】本剤の成分によるショックの既往歴のある患者

【原則禁】本剤の成分又はセフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者

【重副】ショック、アナフィラキシー様症状、偽膜性大腸炎、Stevens-Johnson 症候群、Lyell 症候

群、間質性肺炎、PIE 症候群、肝機能障害、急性腎不全、無顆粒球症、溶血性貧血、低カルニチン血症に伴う低血糖

▶エムラクリーム

Ⓔ

Emla (配合剤) 5g/本

〔佐藤〕

〔薬価〕171.9 円/g

〔貯法〕30℃以下

1g 中：

リドカイン

25mg

プロピトカイン

25mg

【効】皮膚レーザー照射療法時の疼痛緩和

【用】(外) レーザー照射予定部位に 10cm² あたり本剤 1g を、密封法(ODT)により 60 分間塗布する。1 回あたりの塗布量は 10g までとし、塗布時間は 120 分を超えないこと。

【重副】ショック、アナフィラキシー様症状、意識障害、振戦、痙攣、メトヘモグロビン血症

(ネバフェナク)

▶ネバナック懸濁性点眼液 0.1%

Nevanac (0.1%) 5mL/本

〔アルコン〕

〔薬価〕186 円/mL

【効】内眼部手術における術後炎症

【用】(外) 手術前日より、用時よく振り混ぜた後、1 回 1 滴、1 日 3 回点眼する。手術日は術前 3 回、術後 1 回点眼する。

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【重副】角膜潰瘍、角膜穿孔

(フォンダパリヌクスナトリウム)

▶アリクストラ皮下注 7.5mg

Arixtra 7.5mg/0.6mL/筒

〔グラクソ・スミスクライン〕

〔薬価〕4,423 円/筒

【効】急性肺血栓塞栓症及び急性深部静脈血栓症の治療

【用】(注) 以下の用量を 1 日 1 回皮下投与する。
50kg 未満：5mg、50～100kg：7.5mg、100kg 超：10mg

【警告】脊椎・硬膜外麻酔あるいは腰椎穿刺等との併用は、穿刺部位に血腫が生じ、神経の圧迫による麻痺があらわれるおそれがあるので、行わないこと。

【禁】本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者、出血している患者(後腹膜出血、頭蓋内出血、脊椎内出血、あるいは他の重要器官における出血等)、急性細菌性心内膜炎の患者、重度の腎障害(クレアチニンクリアランス 30mL/分未満)のある患者

【重副】出血、肝機能障害、黄疸

(カスポファンギン酢酸塩)

▶カンサイダス点滴静注用 50mg

Ⓔ

Cancidas 50mg/V

〔MSD〕

〔薬価〕16,256 円/V

▶カンサイダス点滴静注用 70mg

Ⓔ

Cancidas 70mg/V

〔薬価〕21,992 円/V

〔貯法〕2～8℃

【効】①真菌感染が疑われる発熱性好中球減少症
②カンジダ属又はアスペルギルス属による下記の真菌感染症：食道カンジダ症、侵襲性カンジダ症、アスペルギルス症(侵襲性アスペルギルス症、慢性壊死性肺アスペルギルス症、肺アスペルギローマ)

【用】(注) ①投与初日に 70mg を、投与 2 日目以降は 50mg を 1 日 1 回投与する。本剤は約 1 時間かけて緩徐に点滴静注する。②食道カンジダ症：50mg を 1 日 1 回投与する。本剤は約 1 時間かけて緩徐に点滴静注する。侵襲性カンジダ症、アスペルギルス症：投与初日に 70mg を、投与 2 日目以降は 50mg を 1 日 1 回投与する。本剤は約 1 時間かけて緩徐に点滴静注する。

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【重副】アナフィラキシー様症状、肝機能障害

(テリパラチド酢酸塩)

▶テリボン皮下注用 56.5μg

Teribone 56.5μg/V

〔旭化成〕

〔薬価〕12,971 円/V

〔貯法〕遮光

【効】骨折の危険性の高い骨粗鬆症

【用】(注) 56.5μg を 1 週間に 1 回皮下注射する。本剤の投与は 72 週間までとすること。

【禁】次に掲げる骨肉腫発生のリスクが高いと考えられる患者[骨ページェット病、原因不明のアルカリフォスファターゼ高値を示す患者、小児

等及び若年者で骨端線が閉じていない患者、過去に骨への影響が考えられる放射線治療を受けた患者]、高カルシウム血症の患者、原発性の悪性骨腫瘍もしくは転移性骨腫瘍のある患者、骨粗鬆症以外の代謝性骨疾患の患者(副甲状腺機能亢進症等)、本剤の成分又は他のテリパラチド製剤に対し過敏症の既往歴のある患者、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

【重副】ショック、アナフィラキシー様症状

(デノスマブ)

▶ランマーク皮下注 120mg (劇)

Ranmark 120mg/V [第一三共]

〔薬価〕45,155 円/V

〔貯法〕遮光、2～8℃

【効】多発性骨髄腫による骨病変及び固形癌骨転移による骨病変

【用】(注)120mg を 4 週間に 1 回、皮下投与する。

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

【重副】顎骨壊死・顎骨骨髓炎、重篤な皮膚感染症 (類薬) 大腿骨転子下及び近位大腿骨骨幹部の非定型骨折

▶タコシール組織接着用シート (特)

TachoSil 9.5×4.8cm/枚 [CSL ベーリング]

〔薬価〕59,121 円/枚

〔貯法〕遮光

1cm ² 中：	
ヒトフィブリノゲン	5.5mg
トロンビン画分	2 単位
ウマコラーゲン	2.1mg

【効】肝臓外科、肺外科、心臓血管外科、産婦人科及び泌尿器外科領域における手術時の組織の接着・閉鎖(ただし、縫合あるいは接合した組織から血液、体液又は体内ガスの漏出をきたし、他に適切な処置法のない場合に限る)

【用】(外)接着・閉鎖部位の血液・体液をできるだけ取り除き、本剤を適切な大きさにし、乾燥状態のままあるいは生理食塩液でわずかに濡らし、その活性成分固着面を接着・閉鎖部位に貼付し、3～5 分間圧迫する。

【禁】本剤の成分又はウマ血液を原料とする製剤(乾燥まむしウマ抗毒素等)に対し過敏症の既往歴のある患者、凝固促進剤(臓器抽出製剤、蛇毒

製剤)・抗線溶剤による治療を受けている患者

【重副】ショック、膿瘍

▶ネオビタカイン注シリンジ 5mL (劇)

Neo Vitacain (配合剤) 5mL/筒 [田辺三菱]

〔貯法〕遮光

1 筒(5mL) 中：	
ジブカイン塩酸塩	5mg
サリチル酸ナトリウム	15mg
臭化カルシウム	10mg

【効】症候性神経痛、筋肉痛、腰痛症、肩関節周囲炎

【用】(注)血管内を避けて局所に注射する。顔面頰骨各部：0.5～1mL、肩甲部：1～2mL、胸・腰各部：1～2.5mL、その他局所：0.5～1mL

【警告】本剤を脊椎麻酔に使用しないこと。

【禁】〔共通(硬膜外・浸潤・伝達)〕本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 [硬膜外]大量出血やショック状態の患者、注射部位又はその周辺に炎症のある患者、敗血症の患者

【重副】ショック、アナフィラキシー様症状 (類薬) 悪性高熱